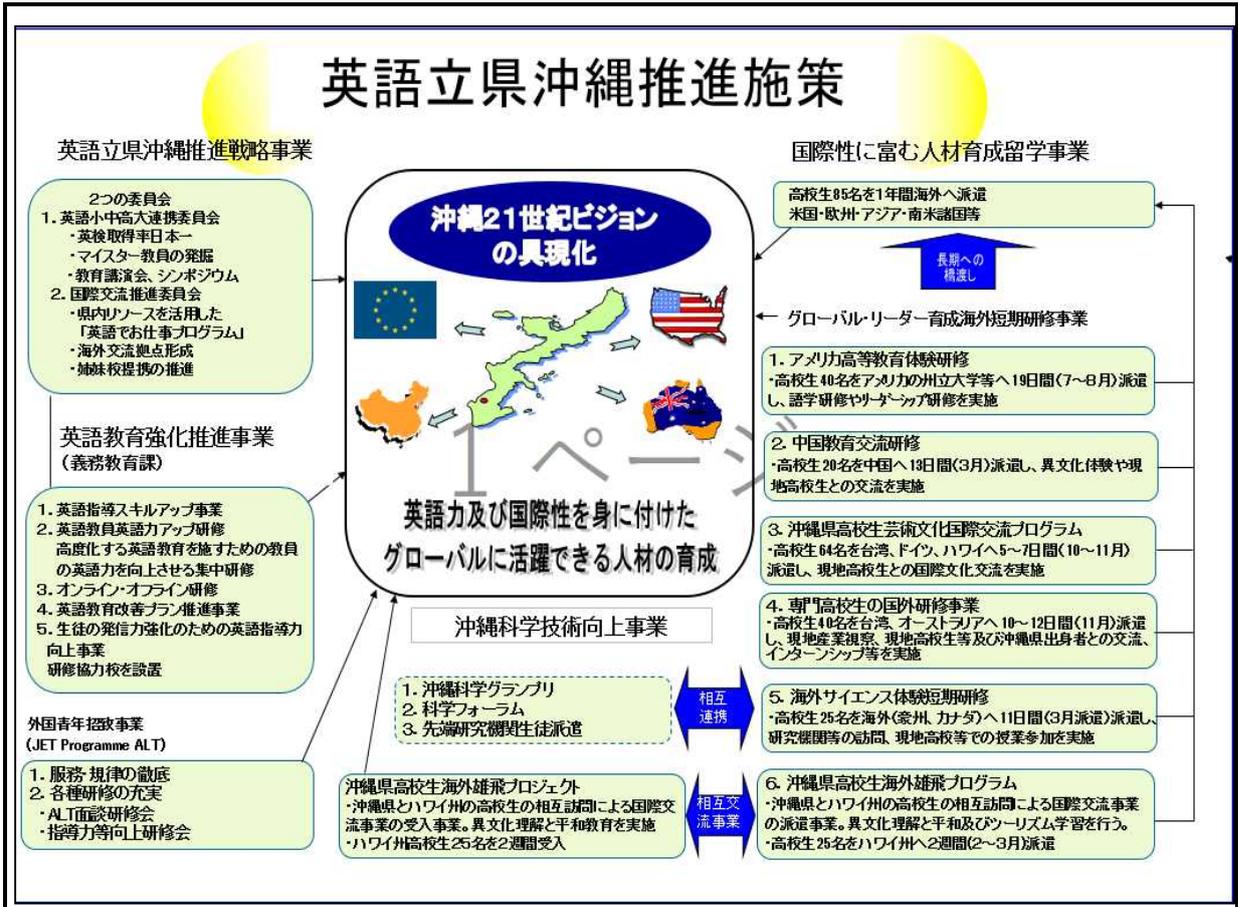


沖縄県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

1 令和元年度(2019)の目標管理状況

(1) 【小学校】

- ・相応の英語力を有する英語担当教員の割合を設定していない。
- ・小学校教員に対する研修実施回数 24回

[令和元年度(2019)の状況・課題] (暫定値)

No	指標内容		2018		2019	
			目標値	達成値	目標値	達成値
①	学習到達目標の整備状況	設定(%)				
		公表(%)				
		達成状況の把握(%)				
②	小学校教員に対する研修実施回数		18回	18回	24回	24回
③	研修受講者数		350	416	950	900

(成果) 小学校教員に対する研修実施回数は24回で、「英語指導力向上研修会」、「小学校英語スキルアップ研修会」等を各教育事務所にて実施している。「小学校英語スキルアップ研修会」では、新学習指導要領の説明と実践的なワークショップを実施し、小学校教員の英語教育に関する知識と指導力向上が図られた。

【課題】依然として指導力の差が大きいこと。また、今年度は評価について周知が難しかった。

[目標達成のための手立て]

全小学校教諭を対象とした悉皆研修会を5カ年計画で実施している。また、県の研究指定校(小学校)に外国語の評価について研究を進め、成果を全県規模で発表した。

(2) 【中学校】

- ・中学校においては、主体的に英語でコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成するために、教員の指導力と英語力を向上させる教員研修を実施し、授業改善をすることで、次の各目標を設定してきた。目標管理の結果は次の通りである。

No.	指標内容	2018		2019		
		目標値	達成値	目標値	達成値	
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	
②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.2%	
③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%
		公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.6%
		達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.2%	
⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回
		ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	
⑦	英語担当教員に対する研修実施回数	18回	18回	18回	18回	
	研修受講者数	450	450	450	450	

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

[平成30年度(2018)] 目標値 50.0% 達成度 51.5%

- ・平成29年度(2017)から引き続き、「教員英語力アップ研修会2日間」「TOEIC 団体テスト」の実施で、目標値を上回ることができた。

[令和元年度(2019)] 目標値 55.0% 達成度 53.0% (暫定値)

(成果) 平成30年度(2018)から引き続き、「教員英語力アップ研修会2日間」「TOEIC 団体テスト」の実施し、教員の英語力向上を図った。県の目標値を上回ることができなかったが、昨年度より1.5ポイントの増加であり、国の求める数値(50%)を上回っている

【課題】教師の英語力は確実に向上しているが、県が設定した目標値を上回ることができなかった。

[目標達成のための手立て]

引き続き学校訪問や諸英語研修会等において英語力向上を図るとともに、個人でも英語力を磨く意欲を喚起するよう大学教授等を研修会の講師として招聘し、研修会の更なる充実に努める。

②求められる英語力を有する生徒の割合

[平成30年度(2018)] 目標値 40.0% 達成値 37.3%

- ・平成29年度より5.6ptと飛躍的に上昇したが、目標値には2.3pt及ばなかった。

[令和元年度(2019)] 目標値 45.0% 達成値 34.2% (暫定値)

(成果) 「英語指導力向上研修会」で小学校中核教員と中学校英語教諭の指導力の向上することにより、言語活動の工夫で、生徒の英語使用量を増やし、アウトプットの重要性の理解が深まった。

【課題】前年度より3ポイント落ち込んでいることから、授業における言語活動の設定がまだ不十分であると考えられる。

[目標達成のための手立て]

県で作成している「問いが生まれるサポートガイド」の活用促進や、文部科学省の教科調査官を招聘した研修会や学校訪問等の支援や取組により、英語による対話的言語活動や表現する機会を充実する授業改善に引き続き取り組んでいく。また、外部試験も利用しながら、生徒の英語力を高めていきたい。

③学習到達度の整備状況

「CAN-DO リスト」形式での設定状況

[平成30年度(2018)]

設定状況 目標値 98.0% 達成値 92.5%

公表 目標値 70.0% 達成値 16.3%

達成把握 目標値 98.0% 達成値 49.0%

- ・すべての項目において、目標値を下回っている。

[令和元年度(2019)]

設定状況 目標値 98.0% 達成値 98.6% (暫定値)

公表 目標値 50.0% 達成値 20.6% (暫定値)

達成把握 目標値 60.0% 達成値 44.8% (暫定値)

(成果) 設定状況が目標値を上回っており、公表の値も昨年度より4ポイント上回る事ができた。

【課題】 設定状況は目標値を上回ることができた。また、公表の値も4ポイント上昇したが、目標値との差が依然として大きい。

[目標達成のための手立て]

引き続き諸英語研修会や学校訪問や研修会等を通して、確実な作成と公表・把握を具体的に支援していきたい。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

[平成30年度(2018)] 目標値 80.0% 達成値 69.3%

・平成29年度より、ポイントが下降した。

[令和元年度(2019)] 目標値 75.0% 達成値 72.2% (暫定値)

(成果) 目標値には達しなかったが、前年度より達成値を向上することができた。

【課題】 生徒の言語活動時間の確保が不十分であることから、教師が話す時間が多く、時間の確保ができていないことが考えられる。

[目標達成のための手立て]

諸英語研修会や学校訪問等を通して、各技能の活動全てが言語活動に繋がるよう授業改善を図っていく。また、研修協力校の公開授業を通して、実践的な指導力向上を図る。

⑤パフォーマンステストの実施状況

[平成30年度(2018)]

スピーキング 目標回数3.0回 達成回数3.0回

ライティング 目標回数2.0回 達成回数2.0回

・目標回数を達成しており、各学校でパフォーマンステストが定着してきていると思われる。

[令和元年度(2019)]

スピーキング 目標回数3.0回 達成回数3.0回 (暫定値)

ライティング 目標回数2.0回 達成回数2.0回 (暫定値)

[目標達成のための手立て]

(成果) パフォーマンステストは、確実に学校で実施されて、定着している。

【課題】 パフォーマンステストの内容等に学校によって差がある。

[目標達成のための手立て]

次年度は、諸英語研修会を通して、テストの内容等の把握と質的な改善を進めていく。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

[平成30年度(2018)] 目標値 73.0% 達成値 78.7%

・目標値を超え、英語で教えるということが確実に意識づけられている。

[令和元年度(2019)] 目標値 80.0% 達成値 79.8%

[目標達成のための手立て]

(成果) 今年度は、ほぼ目標値に達している。

【課題】 授業における英語教師の説明の時間が長くなり、生徒の言語活動の時間が短くなっている。

[目標達成のための手立て]

諸英語研修会や学校訪問等で、引き続き英語担当教師の英語力の向上を図りながら、教師の英語使用は、生徒の英語の使用を促すための手段であることの理解を図る。

⑦英語担当教員に対する研修実施回数

[平成 30 年度(2018)] 小中：目標回数 18 回 達成回数 18 回

・450 人が受講をし、目標値を達成している。

[令和元年度(2019)] 小：目標回数 24 回 達成回数 24 回

中：目標回数 18 回 達成回数 18 回

(成果) 今年度は、小学校教員対象の悉皆研修会を各地区で行ったことで、目標値を上回る 1290 人の小学校教員に研修会を実施することができた。

【課題】 離島の教師の参加が予算的に難しい。

[目標達成のための手立て]

2022 年度までに全小学校英語教員が研修会を受けられるよう引き続き研修会を実施していく。また、引き続きオンラインオフラインを活用して、離島勤務教員の指導力向上を図っていく。

⑧新規採用に占める一定の英語力を有する者の割合

[目標達成のための手立て]

教員採用試験に、一定の英語力や中学校英語免許所持者には加点をする制度を平成 30 年度採用選考実施試験から盛り込んでいる。令和 2 年度の採用から加点の点数を引き上げる予定である。また、地元の大学と連携してコアカリキュラムを通して、小学校教員養成課程に英語教授法の授業を実施してもらっている。新規採用だけではなく、小学校教員に中学校英語二種免許の認定講習を大学と連携して、実施している。

※2025 年度までの、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合予定は以下の通り

No.	指標内容	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
		目標値	達成値										
小学校専科	新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合(%)	15%		20%		30%		40%		45%		50%	
	(人数)	35		47		60		95		95		113	

(3) 【高等学校】

① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

目標値 80.0%に対して 82.8%と目標値を達成している。長期休業中に実施している英語担当教員の英語力向上研修等の成果が見られる。

② 求められる英語力を有する生徒の割合

目標値 54.0%に対して 44.3%と下回っている。「CEFR A2 レベル相当以上を取得している生徒の割合」が 18.5%であり、前年度より 0.4 ポイント増加しているものの、「CEFR A2 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合」が前年度比 2.4 ポイント減の 25.8%となり、全体として前年度の実績を下回る結果となった。

全県立高校 2 年生を対象に英語能力判定テスト(英検 IBA)を実施し、外部機関(県内大学)の協力のもとテスト結果の分析説明を当該テスト実施校の全てにフィードバックする等の取組を継続するとともに、目標値達成に向けた各種研修の充実を図りたい。

③ 学習到達目標の整備状況

「CAN-DO リスト」の形式での設定状況は、H27 年度全高校からの提出があり 100%であった。設定した目標の達成状況の把握は、前年度比 12.5 ポイント増の 60.2%であり、目標値 60.0%を達成している。公表に関しては、前年度から 1.8%改善しているものの、実績値(20.4%)と目標値(40.0%)にはまだ開きがある。公表の意義について理解を深めるとともに、作成した「CAN-DO リスト」の見直しを適宜進め、公表の促進を図りたい。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

現状は目標値 60.0%に対して 51.9%であり、昨年度の実績値 55.9%より 4.0%下回った。目

標設定と評価のあり方についての認識や取組が進む一方で、指導における言語活動時間の確保については後退する結果となった。実用的なコミュニケーション能力の向上のためには、目標言語を授業の中で実際に使用する場を十分に作ることを、中高連携研修会等の公開授業でモデルを示し、共通理解を図りたい。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

パフォーマンステストを実施した学校は平成 30 年度 52 校から今年度 54 校と増加している。スピーキングテスト及びライティングテストの両方を実施した学校が 49 校、スピーキングテストのみの実施が 4 校、ライティングテストのみの実施が 1 校であった。評価にパフォーマンステストを組み込んでいる学校が多数ではあるが、学校によって科目ごとのばらつきがあること等、課題は残されている。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

平成 30 年度 61.2%から今年度 63.1%と改善が見られる。全英語担当教員を対象に 5 年間かけて実施し、今年度が最終年度であった英語教員指導力向上研修や、求められる英語力を有する英語担当教員の割合の増加等の成果が見られたと考えられる。

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数

今年度は、前年度より 1 回多い 19 回の研修を実施した。幅広い内容の研修を数多く実施し、多くの教員に学びの場を提供することに努めている。これらの研修を通して、異校種との連携を積極的に進めている。

2 令和元年度(2019)の取組み

(1) 【小学校・中学校】

平成 30 年度(2018)の課題と成果を踏まえ、令和元年度(2019)は以下の研修会や取組みを推進した。

① 英語指導力向上研修会（小・中学校教諭 約 360 名）

文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキルアップを図った。

② 中学校英語教員英語力アップ研修会（中学校教諭 180 名程度）

高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座である。この研修において、準一級を取得していない教員を主な対象にし、大学の教授による英語教育の理論研とワークショップ等の集中講座を実施し、資格取得率を高める取り組みを行った。

③ 小学校英語スキルアップ研修会（小学校教諭 650 名）

小学校教諭を対象とした、新学習指導要領の説明やワークショップを各地区で行った。いくつかの地区で英語教育推進リーダーが、公開授業や講師などを務めた。

④ 外部英語検定試験等（TOEIC、英検 IBA）の受検料をサポートし、求められる英語力を有する英語担当教員の増加を目指した。結果、求められる英語力を有する教員の数値が向上した。

⑤ 研修協力校公開授業【金武中学校】〈1/24〉（県内全地区の小・中学校教諭 約 50 名）

金武町金武中学校で、生徒の発信力向上を重点においた公開授業を行い、麻布教育研究所の村瀬公胤所長を招聘し、指導助言を得ると共に、英語教育の理論を学んだ。

【佐敷小中学校】

小中連携の公開授業をおこなった。

⑥ 小学校英語専科教員連絡協議会（小学校英語専科教員 23 名）

小学校英語専科教員の学校での取組みや指導方法や教材等の情報交換をおこなった。また、英語マイスターと研修協力校の英語専科による評価についての研修を行った。

(2) 研修協力校について

① 南城市立佐敷小学校

(具体の取組の内容)

- ・地区内小学校スキルアップ研修会公開授業の実施
- ・小中の学びの接続や指導方法の工夫をテーマにした中学校公開授業の授業参観
- ・全6年生対象の英検ブロンズテストの実施

[成果]

- 学級担任がT1として、授業の計画を立てることで、ALTと授業の打ち合わせがスムーズにできるようになった。
- 英語に対する苦手意識を持った教師が減少した。
- 中学校への繋ぎをイメージして授業をするようになった。
- 英語の聞き取りの力が向上した。
- 英語の学習が楽しいと答える児童が増えた。

[課題]

- クラスルームイングリッシュ等の教師の英語力向上
- 児童の興味・関心を高めるための教材・教具の工夫

② 南城市立佐敷中学校

(具体の取組の内容)

- ・生徒の英語力の向上及び教師の指導力向上をめざし、授業公開や、授業リフレクションの実施。
- ・言語活動において、即興性を意識した「話す活動」→正確性を意識した「書く活動」の流れの授業の共通実践。
- ・生徒の発信力を高めるためにアウトプットを意識した授業の実践 (Small Talk やパフォーマンステストの積極的な実施等)
- ・小中連携の工夫として、中学校教師による出前授業や小学校との定期的な情報交換会の実施、小学校と連携しての英語検定の実施。

[成果]

- 授業リフレクションを活用して、授業改善に取り組み、教科内で共通実践することができた。
- 生徒の英語への関心が高まり、英語検定を積極的に受験する生徒が増えた。(H30年度155名→R1年度186名)
- 各種学力調査で、市・県平均を上回ることができた。
- 「英語の勉強は大切だ」と肯定的に考える生徒が増えた(4月90.6%→1月94.5%)
- 小学校での英語授業を把握することができ、小学校での学びを発展させて、中学校での活動に繋げることができた。

[課題]

- 継続した教員の指導力向上研修会の実施
- 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた更なる言語活動の工夫

③ 金武町立金武中学校

(具体の取組の内容)

- ・Small Talkを通して、生徒が即興的に考えながら会話をし、友達との情報交換を楽しみながら、生徒の意欲向上と話す能力の向上を目指した授業実践
- 即興で英語の会話ができる生徒が増え、英語での会話を楽しむ生徒が増えた。
- 英語を自信を持って、話すことができる生徒がふえた。
- 85%の生徒が、パフォーマンステストで教師の質問に答えるだけでなく、教師に質問したりする「やり取り」をすることができた。

[課題]

- スモールステップで Small Talk を進めているが、その工夫と改善
- 評価方法の整理と工夫
- フィードバックの研究と改善

3 令和元年度(2019)の全体的な成果と課題

(1) 【小学校・中学校】

{成果}

・小中学校において、県としては「英語教育強化推進事業」という名称で様々な研修を実施してきた。研修会を通し、教師の英語力は国の目標とする値を上回ることができた。また、小学校の外国語科のスタートに向けて、各地区で推進リーダーや小学校英語専科教員が実施した公開授業や、理論研、ワークショップを通して教師の指導力向上を図ることができた。

小学校英語専科教員連絡協議会においては、評価についての研修会を持つことができたことに加え、情報交換を通して英語専科の取組状況や各学校での課題を把握し、解決策を話し合うことにより、専科教員の自信に繋げることができた。

また、研修協力校による「発信力を高めるための公開授業」は、生徒の発信力向上のための言語活動の在り方に大変参考になった。

{課題}

・小学校においては、教員によって指導力に差があることと、評価について学校の理解が難しかったことである。悉皆研修会である「小学校英語スキルアップ研」や研修協力校の研究を通して、改善を図っていく。

中学校においては、依然として中学校3年生の英語力である。中学校教員を対象とした各区種研修会や学校訪問を通して、中学校3年生で測られる英語教育の成果に反映されるようにしていきたい。また、研修協力校を通して、言語活動の在り方を引き続き研究していきたい。

(2) 【高等学校】

高等学校においては、英語教育改善プランで設定した目標設定値について多くの項目において目標値を下回っているが、前年度比で見ると全体的に漸進的な改善が見られる。

前年度から改善が見られる項目は、「①求められる英語力を有する英語担当教員の割合」「③学習到達目標の整備状況」「⑤パフォーマンステストの実施状況」「⑥英語担当教員の授業における英語使用状況」「⑧英語担当教員に対する研修実施回数」である。一方、前年度の実績値を下回った項目は、「②求められる英語力を有する生徒の割合」「④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」「⑦英語担当教員に対する研修の受講者数」である。

指導と評価の一体化の観点からは、「パフォーマンステストの実施状況」の改善と「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」の後退は整合しない。評価活動が指導と別物ではなく、授業をコミュニケーションの場と捉えて十分な言語活動時間を確保し、そこで育成された英語運用能力をパフォーマンステストで評価するという、指導と評価の一体化についての理解を進めながら、両項目の改善を図る必要がある。

(3) 研修の体系と内容の具体

令和元年度(2019)の課題と成果を踏まえ、令和2年度(2020)～2022年度までの目標管理を次のように設定し、以下の取り組みを計画している。

1 令和元年度(2019)年度から2022年度までの目標設定

【小学校】

校種	No	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	100.0%
			公表(%)	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	100.0%
			達成状況の把握(%)	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	100.0%
②	小学校教員に対する研修実施回数	18回	18回	24回	32回	24回							
③	研修受講者数	350	416	950	1290	950	950	950	950	950	950	950	

【中学校】

校種	No	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%	53.0%	60.0%		65.0%		70.0%		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%	34.2%	40.0%		45.0%		50.0%		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%	98.6%	100.0%		100.0%		100.0%	
			公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%	20.6%	60.0%		70.0%		80.0%	
			達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%	44.8%	70.0%		80.0%		90.0%	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%	72.2%	75.0%		75.0%		75.0%		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	3回	3回		3回		3回	
			ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	2回	2回		2回		2回	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%	79.8%	85.0%		88.0%		90.0%			
⑦	英語担当教員に対する研修実施回数	18回	18回	18回	18回	18回		18回		18回			
	研修受講者数	450	450	450	450	450		450		450			

【高校】

校種	No	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%	82.8%	83.0%		85.0%		90.0%			
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%	44.3%	50.0%		50.0%		50.0%			
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		
			公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%	20.4%	50.0%		60.0%		70.0%		
			達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%	60.2%	70.0%		80.0%		90.0%		
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60.0%	55.9%	60.0%	51.9%	60.0%		60.0%		60.0%			
	⑤	パフォーマンステストの実施状況												
			○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回	2.6回	3回		3回			
				コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回	1.8回	3回		3回		3回	
				コミュニケーション英語Ⅲ	3回	1.5回	3回	1.5回	3回		3回		3回	
			英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ	5回	2.6回	5回	2.2回	5回		5回		5回	
				英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回	3.5回	5回		5回		5回	
				コミュニケーション英語Ⅰ	5回	1.3回	5回	2.2回	5回		5回		5回	
				コミュニケーション英語Ⅱ	5回	1.7回	5回	1.8回	5回		5回		5回	
			○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅲ	4回	1.6回	4回	1.7回	4回		4回		4回	
				英語表現Ⅰ	5回	2.0回	5回	2.3回	5回		5回		5回	
英語表現Ⅱ	5回	2.9回		5回	2.6回	5回		5回		5回				
新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										3回		
		論理・表現Ⅰ										5回		
○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ											5回		
	論理・表現Ⅰ											5回		
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%	63.1%	75.0%		75.0%		75.0%				
⑦	英語担当教員に対する研修実施回数	18回	18回	18回	19回	18回		18回		18回				
	研修受講者数	400人	406人	400人	353人	400人		400人		400人				

2 目標達成に向けた県の取組

(1) 【小学校・中学校】

令和元年度の課題と成果を踏まえ次のように研究を推進していく。

「英語指導力向上推進事業」やその他の事業の中で以下の手立てを実施する。

- ① 英語教育改善プラン推進事業に係る生徒の発信力強化のための英語指導力向上研修会（研修協力予定校：小1校、中1校）（研修会の対象者：中学校教諭 143名）

目的：沖縄県が策定した英語教育改善プランに基づき、生徒の発信力を向上させるための効果的な公開授業を通して、指導力向上を図る。また、小学校の研修協力校においては、評価についての研究を行う。

内容：研修協力校を指定し（小学校1校、中学校1校）言語活動の充実を図る研究やパフォーマンス評価の在り方や、小学校外国語評価等の英語教育研究を図る。校内研修会や教科会を通して、義務教育課担当指導主事、該当教育事務所指導主事が助言を行う。また、全県を対象とした公開授業等を行い、大学講師等外聞有識者を招聘し指導助言を授業改善に活かす。また、中学校においては、効果的な言語活動をテーマに研究を進めていく予定。

評価方法：沖縄県学力到達度調査と英語教育実施状況調査を指標とする。

- ② オンライン・オフライン研修会（対象者：中学校教諭 20 人程度）
 目的：オンライン・オフライン研修を通して、研修会へ参加が難しい離島勤務の英語教諭を中心に指導力向上及び授業改善を図る。
 内容：文科省から委託された業者が作成した研修プログラムをオンラインで受講する。
 該当機関から派遣される外部専門講師による 1 日のオフライン研修会を本庁で開催する。
 評価方法：沖縄県学力到達度調査、英語教育実施状況調査と教師や生徒へのアンケート実施
- ③ 中学校英語教員英語力アップ研修会【2 日間】（対象者及び人数：中学校教諭 180 名）
 目的：高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座。この研修において、準一級を取得していない教員を主な対象にし、研修会を通して資格取得率を高める取り組みを行う。
 内容：大学教授等を講師とした英語の理論研と実践を学ぶ。また、TOEIC 受検を実施し、受講者個人の現在の英語力を把握させ、資格取得への手立てと意欲喚起を図る。
 評価方法：英語教育実施状況調査及び TOEIC 試験の結果で CEFER B1 レベルの点数を指標とする
 外部専門機関：大学の教授にと TOEIC 試験を活用する。
- ④ 小学校英語スキルアップ研修会【3 回～5 回】（対象者：小学校教諭 約 1050 名）
 目的：全小学校英語教諭を対象とした 5 年計画の悉皆研修である。全小学校教諭が受講し、新教材の活用法や新学習指導要領の理解と周知を図る。
 内容：各地区から 1 回の研修会で約 50 名を受講者とする。英語教育推進リーダーや小学校英語専科教員による公開授業と新学習指導要領の理解を図る。
 推進リーダー活用：公開授業の授業者とワークショップ等の講師
- ⑤ 中学校英語授業力アップ研究会 調査官招聘授業【2 日】（対象者：中学校教諭 294 人）
 目的：文部科学省教科調査官による指導助言と講話を通して、中学校英語教師の英語指導力向上と授業改善を図る
 内容：県内 6 地区で前期と後期に 2 回の研修会を行い、文部科学省教科調査官から理論研や指導助言を受けると共に、英語教育についての国と動向や授業改善の手立てを学ぶ。
 加えて、実践的な言語活動についての指導力を向上させ授業改善に繋げる。
 評価方法：沖縄県学力到達度調査、英語教育実施状況調査、学校訪問及び参加者のアンケート
 推進リーダー活用：授業者の指導案検討会や検証授業での助言
- ⑥ 学校訪問及び教科訪問【通年】〔沖縄県内小中学校〕
 目的：学校として学力向上の取り組みが弱い学校を訪問し、助言を行う
 内容：沖縄県学力到達度調査や全国学力・学習状況調査の結果から、英語科として取組が弱いところへ義務教育課や教育事務所担当主事が学校訪問を行い、授業参観と英語科としての取り組みについて助言する
 評価方法：県オリジナルのプランシート、沖縄県学力到達度調査及び英語教育実施状況調査
- ⑦ 英検 IBA テスト（対象者：中学校 2 年生約 7000 人）
 目的：外部テストの結果を通して学校や個人の課題を把握し、教師の授業改善と生徒自身の学習の手立てを図る。
 内容：ブロック型研究会に所属している中学校を中心に、所属している中学校 2 年生を対象に受検させ、その結果を大学の教授等に分析してもらい、フィードバックを図る。
 評価方法：英検 IBA から配布される県・地区・市町村・学校の結果シート

⑧ 小学校教員のための中学校英語免許認定講習（対象者：小学校教諭）

目的：小学校教諭へ中学校英語二種免許の取得を促進し、教科化へ向けての小学校教諭の英語指導力と英語力向上を目指す。

内容：中学校英語二種免許取得のための英語講座

評価方法：免許取得者の人数

⑨ 新規採用に占める一定の英語力を有する者の割合について

No.	指標内容	2020		2021		2022		2023		2024		2025	
		目標値	達成値										
小学校専科	新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合（％）	15%		20%		30%		40%		45%		50%	
	（人数）	35		47		60		95		95		113	

〔次年度の取組〕

教員採用試験に、一定の英語力や中学校英語免許所持者には加点をする制度を平成 30 年度から盛り込んでいる。また、令和 2 年度から小学校英語専科の要件を満たす加点を 10 点から 15 点に引き上げ、規準も「CEFER B2」の得点にそろえた。改善を図りながら、一定の英語力を有する者の割合を引き上げていく。また、地元の大学の協力により、小学校教員養成課程においてコアカリキュラムを設定し、英語教授法の単位取得を盛り込んでいる。引き続き、大学や学校人事課と連携して、一定の英語力を有する新規採用者の割合を増やしていく。

【選考実施の加点（平成 30 度から実施）】

ア 小学校・特別支援学校小学部を受験する者で、次のいずれかを満たす者

（ア）中学校教諭又は高等学校教諭の「英語」の普通免許状を有する者（10 点）

（イ）実用英語技能検定準一級以上、TOEFL iBT® 80 点以上又は TOEIC® Listening&Reading Test 730 点以上のいずれか（10 点）

イ 中学校「英語」・高等学校「英語」を受験する者で、次のいずれかを出願の 2 年前の 4 月 1 日以降に受験し、取得した者

（ア）実用英語技能検定一級、TOEFL iBT® 100 点以上又は TOEIC® Listening& Reading Test 945 点以上のいずれか（20 点）

（イ）実用英語技能検定準一級、TOEFL iBT® 80 点以上又は TOEIC® Listening& Reading Test 730 点以上のいずれか（5 点）



（令和 2 年度）

① 小学校教諭等又は特別支援学校小学部教諭等を受験する者で、次のいずれかの資格を有する者

ア 英語に係る中学校又は高等学校教諭普通免許 （15 点）

イ 実用英語技能検定準 1 級以上、TOEFL iBT® 72 点以上又は TOEIC® Listening&Reading Test 785 点以上のいずれか （15 点）

② 中学校教諭等「英語」又は高等学校教諭等「英語」を受験する者で、次のいずれかのを出願の 2 年前の 4 月 1 日以降に受験し、取得した者

ア 実用英語技能検定 1 級、TOEFL iBT® 95 点以上又は TOEIC® Listening&Reading Test 945 点以上のいずれか（20 点）

イ 実用英語技能検定準 1 級、TOEFL iBT® 72 点以上又は TOEIC® Listening&Reading Test 785 点以上のいずれか（5 点）

(2) 【高等学校】

高校英語担当教員対象の研修は「教育課程説明会」「英語教員指導力向上研修」の2つ、中高英語担当教員対象の合同研修は「高校入試分析説明会」「中高連携研修会」「英語能力判定テストフィードバック説明会」「教育講演会」「小中高大連携シンポジウム」の5つ実施している。多くが本島・離島を含む全県立60校を対象とした悉皆研修であり、研修会では県の「英語教育改善プラン」の共有の場としても活用している。今後もこれらの研修を継続的に実施し、目標値達成を図りたい。

① 教育課程説明会

今年度から3カ年かけて県立高校全英語科教員対象に主に新学習指導要領に関する教育課程研修会を県内3地区で実施する。英語教育をめぐる国の動向、本県生徒の英語力の推移、教員の英語力の状況、留学事業等に関する行政説明を行うとともに、テーマに基づくグループ討議を行い、協議内容の共有を通して全体的な授業力向上に努めている。

② 英語教員指導力向上研修

全英語担当教員を対象に5年間かけて実施し、今年度が最終年度であった。本研修では、すべてのセッションが英語で実施され、研修参加者がグループになって協働的にタスクに取り組む。様々な教授法についての理解を深めるとともに、研修参加者の授業実践を共有する機会とする。

③ 高校入試分析説明会

県内7地区において、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員1名が参加する高校入試分析会を実施し、3技能（読む、聴く、書く）の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組む。

④ 中高連携研修会

県内6地区において実施する研修であり、県内全ての中学校及び高校から1名の教員が参加し、中高英語担当者の連携を通して英語教育の充実を図る。異校種の授業観察や中高教員間の意見交換等を行い、本県英語教育の課題の共有や対応策を協議する。今年度は2地区で小学校での公開授業を行い、連携を小学校にも拡充した。

⑤ 英語能力判定テストフィードバック説明会

英検協会の英語能力判定テスト（英検 IBA）の結果について、外部有識者（県内大学教授）に分析を依頼し、生徒の技能別傾向について理解を深めるとともに、今後の指導の充実に資することを目的として実施する。当該テスト受験校（今年度は全県立高校）より英語科教員1名が参加する。

⑥ 教育講演会

毎年、県外大学等から英語教育に関する有識者を招聘し、教育講演会を実施している。

⑦ 小中高大連携シンポジウム

県内の英語教育関係者を対象に実施するシンポジウムで、県内の小学校・中学校・高等学校・大学の英語教育連携に関する課題を協議し、連携強化を図り、これからの英語教育の充実に資する。沖縄県教育委員会が認定する「英語授業マイスター」を含め、小学校から大学までの各校種からシンポジストが参加する。

⑧ 英語でお仕事プロジェクト

県内の外国語と深い関わりのある機関より講師を招聘し、「英語を活用する国際的な仕事」を紹介してもらうことで、生徒の英語学習への興味を喚起する。また、キャリア教育の一環として、生徒自らの進路決定に活かす機会とする。

